



19み総第324号  
平成19年5月2日

国土交通省道路局長 殿

みやこ町長 白石 春夫



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

貴職におかれましては、平素から国民の生活に欠かせない種々の道路行政に格段のご配慮を戴き誠に有難くここに深く感謝を申し上げます。さて、標記の件について、率直に意見を述べさせていただきます。

交通インフラ整備は国民生活の利便性を増すだけでなく、地域経済・文化の発展に欠かせないものです。近年、都市部と地方の地域間格差が社会問題となつていますが、それ以前から交通環境においては、格差が顕在化していると考えていました。

例えば、農山魚村等の過疎地域では、公共交通機関の廃止や撤退等により著しく不便を強いられている地域が増加しています。こうした地域は道路事情も悪く企業の進出も見込めない極めて採算性の低い地域とみなされ、将来に期待が望めない地域と位置づけられているようです。「みやこ町」もこうした地域として埋没することのないよう日々努力を続けています。

福岡県の北東部に位置する北九州、京築地域はようやく昨年、新北九州空港が開港し、港湾整備や東九州自動車道の建設が進む中、今後の地域振興、浮揚が期待されている地域です。

しかし、期待どおりの効果を得るには、空港や駅、あるいは高速道のインターチェンジなどの交通拠点を結ぶ細やかな地域交通網の整備が不可欠であり、当地域においては国道201号、国道496号の早期整備は喫急の課題と認識しています。中でも大分県境のトンネル化は内陸部における資源や物流の運搬、交流を活発化させるだけでなく、新北九州空港に至る新たなルートの確立に繋がるもので、24時間運用できる空港のメリットと相まって、地域の産業経済発展に資するものと確信しています。

いずれにいたしましても、こうした地域交通網の整備が地域住民の利便性を高めるだけでなく、企業進出など新たな経済活動の進展によって、北九州京築地域、ひいては九州北東部地域全域がさらに今以上に発展し、大きく変貌を遂げることを期待しているところです。